

策定の趣旨

計画の位置づけ
計画改定の背景
他の計画との関係

環境の現状と課題

環境の現状
現在の環境基本計画の成果と評価、今後の課題

計画の理念

「あいち環境社会」を形成し未来に引き継ぐこと。

目標

現計画の四つの社会づくりを引き続き進める。
 <循環>：物質が循環的に利用されるなど環境負荷の小さな社会
 <共生>：多様な生態系が健全に維持され人と自然の豊かなふれあいが確保された自然と共生する社会
 <安心>：大気、水、土地、生物の恩恵にあずかる県民が安心して生活のできる社会
 <協働>：地球的視野で環境を考え、県民・民間団体、事業者、行政が協働する社会

環境政策の方向

愛知万博の理念・成果の具現化
 環境と経済が好循環する「ものづくり県」の創造
 恵み豊かで持続可能な県土・自然の形成
 地域社会、家庭、企業活動など社会の隅々への環境配慮の浸透
 行政各分野の施策推進における環境重視
 県民、事業者、民間団体等の自主的取組の促進と連携
 国・隣接県との連携と国際環境協力

新しい環境基本計画の目標を具現化する九つの重点施策（（ ）は目標とする社会づくり）

新エネルギーの戦略的展開等による脱温暖化の推進（循環、協働）

太陽光等の自然エネルギーや工場、農地、山林、畜産等で発生する未利用資源の活用を進めることなどにより、脱温暖化に向けた取組を加速する。

循環ビジネスの創出等によるゼロエミッション・コミュニティの形成（循環、協働）

愛知が持つ優れた産業技術を活かし、循環ビジネスの発掘・創出を図りながら、資源循環が図られる地域社会を県内各地に形成する取組を進める。

環境に配慮した機能的な街づくり（循環、協働）

中心市街地・商店街の活性化、緑化の推進、車への依存を減らす交通対策など、人々を都心に回帰させるための幅広い行政施策を連携して進め、環境負荷の少ないコンパクトで機能的な街づくりを進める。

総合的な水環境保全のための水循環再生（循環、共生、協働）

水源の森づくり、下水道や農業集落排水処理施設等の整備、多自然型河川づくり、藻場・干潟の造成などにより、健全な水循環の再生を図る。

地域特性に応じた生物多様性の保全（共生、協働）

自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区の維持、拡充を始め、生物の生息生育の保全・創出を図ることにより、生態系ネットワークを形成するとともに希少野生動植物の保護のための規制を実施し、生物多様性の保全を推進する。

環境に関する安全・安心の確保（安心、協働）

アスベスト、PCBなど「負の遺産」への対応や化学物質対策、局所的な公害対策、東海地震等の大規模災害時における環境対策など、環境面での安全・安心を確保する取組を進める。

国際協力の推進（協働）

環境に関する国際会議を誘致することにより、地域の環境に対する意識を一層高めるとともに、愛知の持つ環境に関する知識・経験を国際交流へと繋げる取組を進める。

環境学習の機会の提供等によるあいち環境人づくり（協働）

環境に関する情報提供・啓発活動や環境学習の推進など、県民の環境意識の高まりを活かし、環境に対する「思いやり」の心を大切に、環境を優先した行動をするような県民（あいち環境人）を増やしていくための取組を進める。

環境の価値を評価、反映する経済活動の促進（協働）

企業経営への環境の内在化支援、環境配慮による経済的メリットの付与などにより、経済活動において環境の価値が一層評価・反映される社会の形成に向けた取組を進める。

計画の推進・進行管理

【目標の設定】 上記施策体系ごとに、身近で分かりやすい数値目標を設定

【各主体に期待される役割】 県民・民間団体・事業者・市町村に期待される役割を明記

【計画の推進・進行管理】（概ね5年経過後に全体の点検を実施）

個別計画の推進組織等の活用・連携及び県内各地における意見交換などの実施。

環境づくり推進協議会・環境対策推進会議による計画の推進・進捗状況の点検、環境白書による進捗状況の公表・新課題の提示